

令和5年度 環境で地域を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 成果共有会 発表資料

### 活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	

活動団体名：千葉県木更津市

活動地域：木更津市全域

活動におけるテーマ

『きさらづ地域循環共生圏の創造』

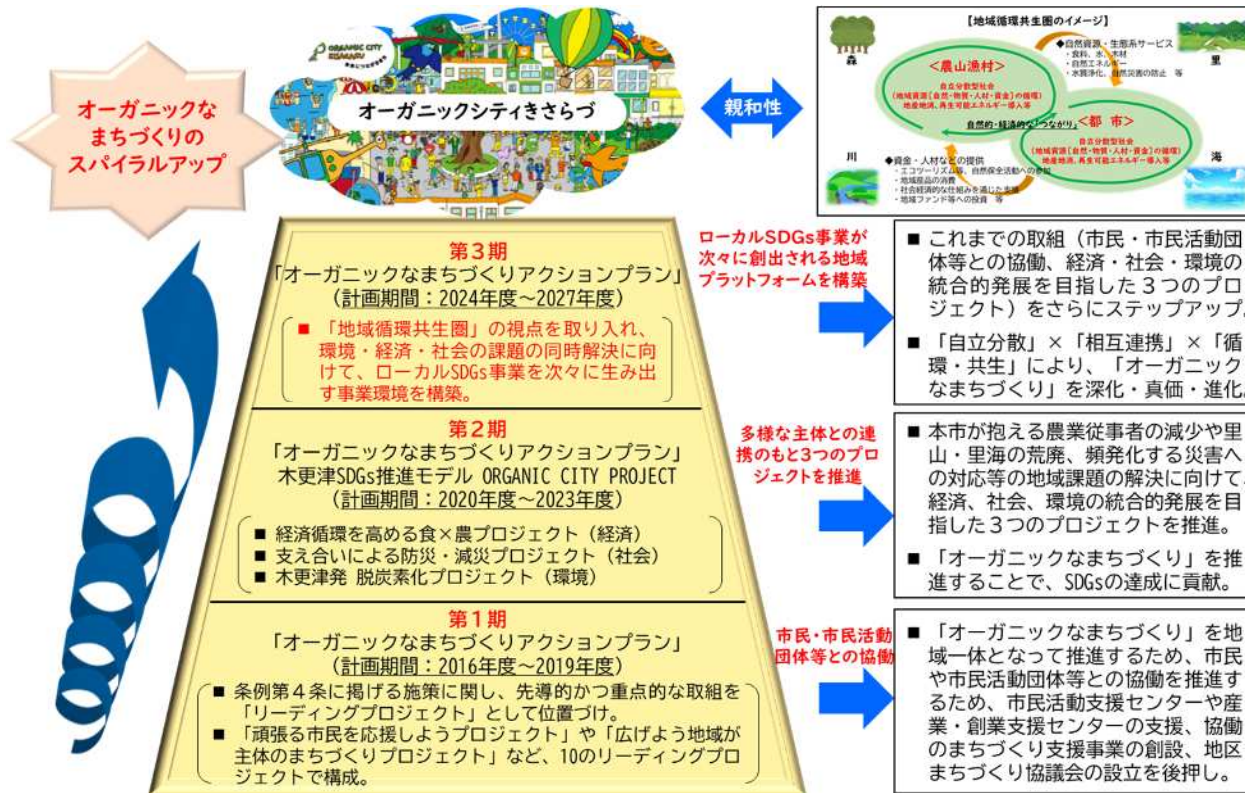
# 活動団体および活動地域の紹介

## オーガニックシティきさらづ



「自立」・「循環」・「共生」をキーワードに、持続可能な未来を創るため、一人ひとりが有機的に行動する「まち」を目指す。

## 「オーガニックなまちづくり」と地域循環共生圏の位置づけ



- 昭和17年11月3日に市制施行し、広域交流の拠点都市としての役割を担いながらまちづくりを進展させ、令和4年に80周年を迎えた。
- 近年は、東京湾アクアラインをはじめとする広域道路ネットワークの整備に伴い、交通利便性が大きく向上するとともに、東京湾最大の自然干潟を有する豊かな自然環境に恵まれた都市である。

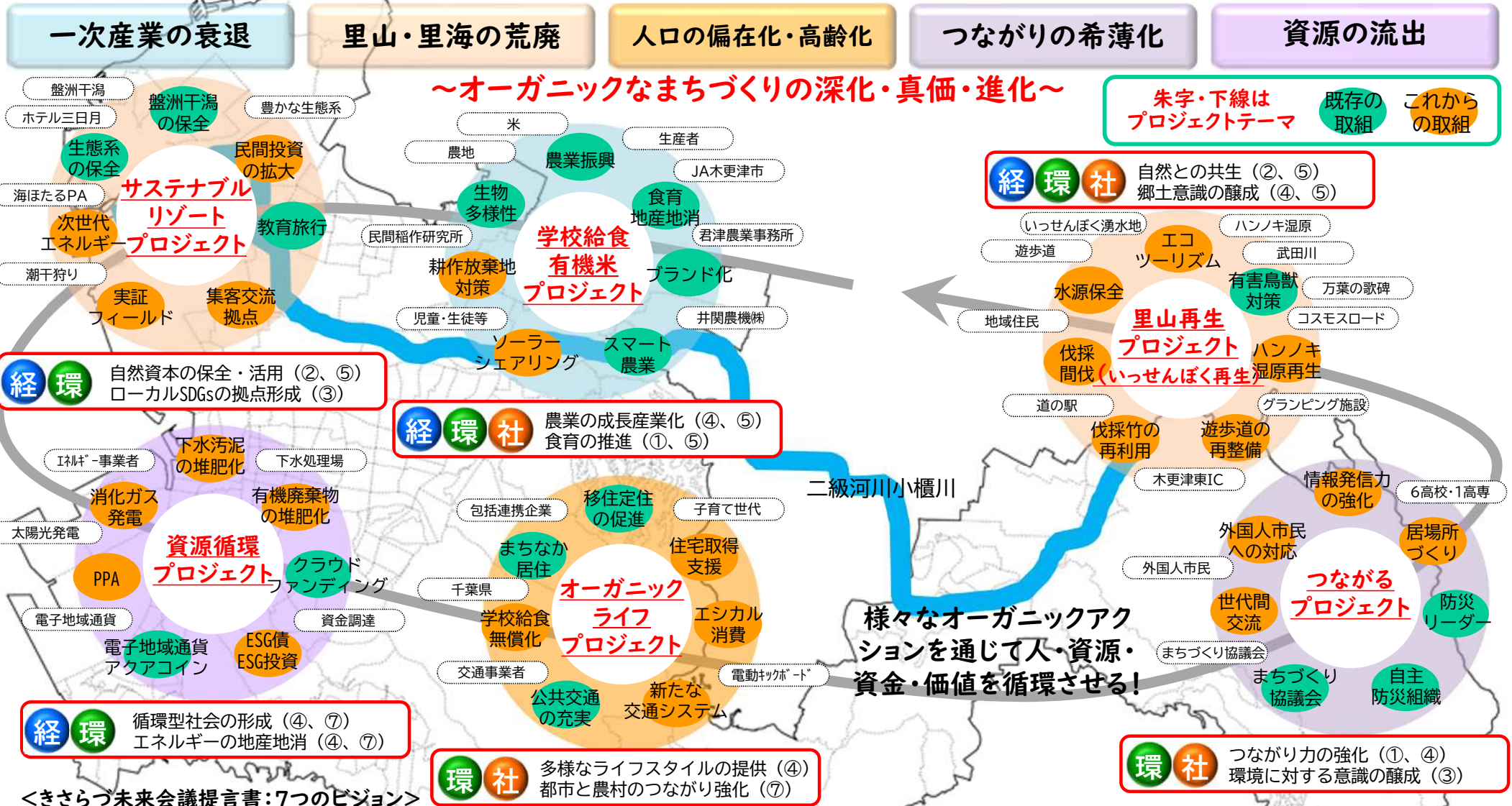
## 第3期オーガニックなまちづくりアクションプラン

「きさらづ地域循環共生圏の創造」を掲げ、取組の重点化及び戦略化を図り、市民のネットワークづくりを強化しながら、地域ぐるみで持続的な取組を進める。



# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

木更津市マンガラver.1.0

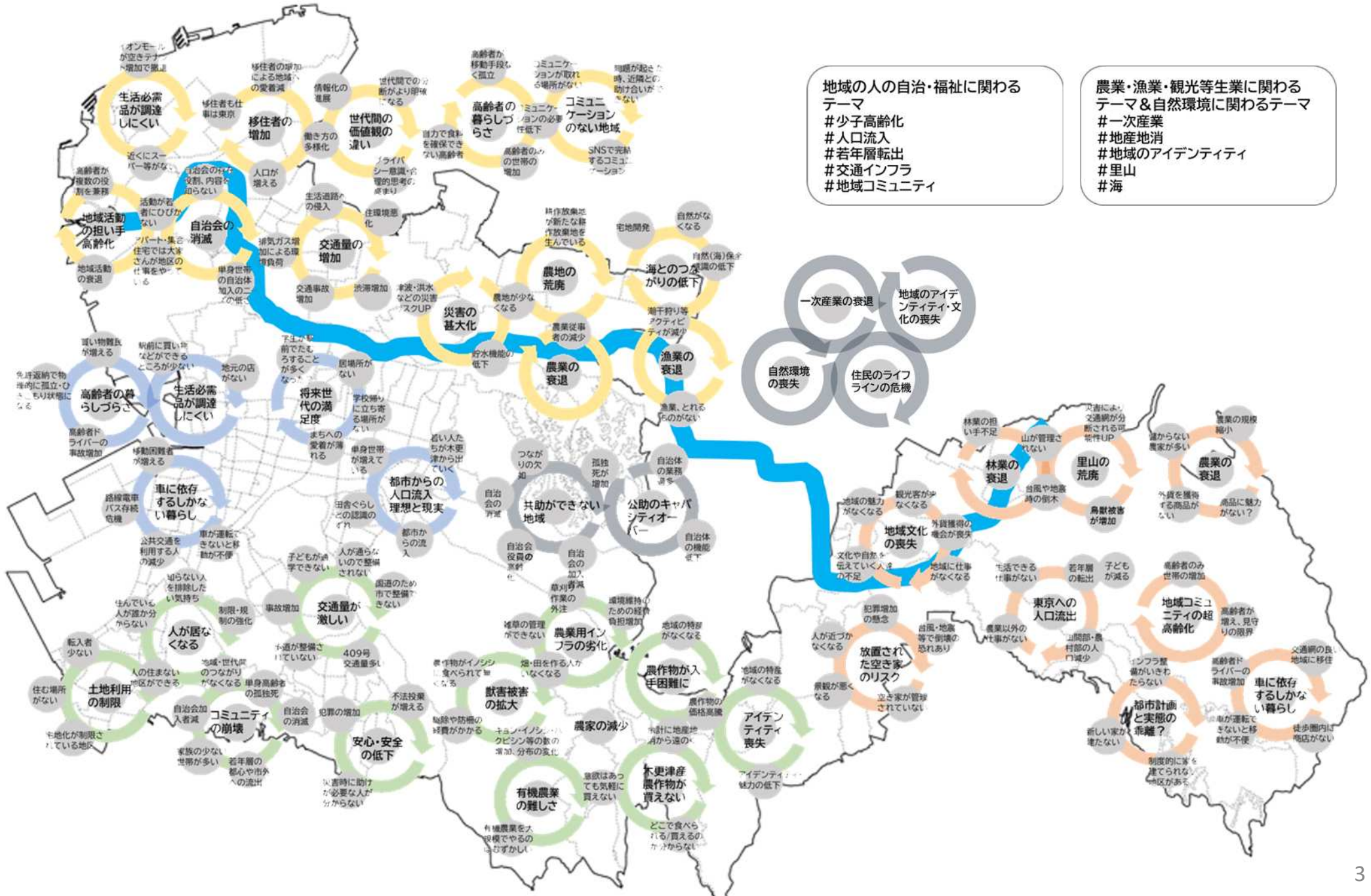


- ①人のつながりがあるまち
- ②自然とともにあるまち
- ③人を呼ぶ魅力のあるまち
- ④誰もが安心して暮らせるまち
- ⑤子ども・若者が育つ環境のあるまち
- ⑥わくわくして暮らせるまち
- ⑦生活が便利なまち

自然に寄り添い、学び、経済が循環する自立した共生社会の実現

# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

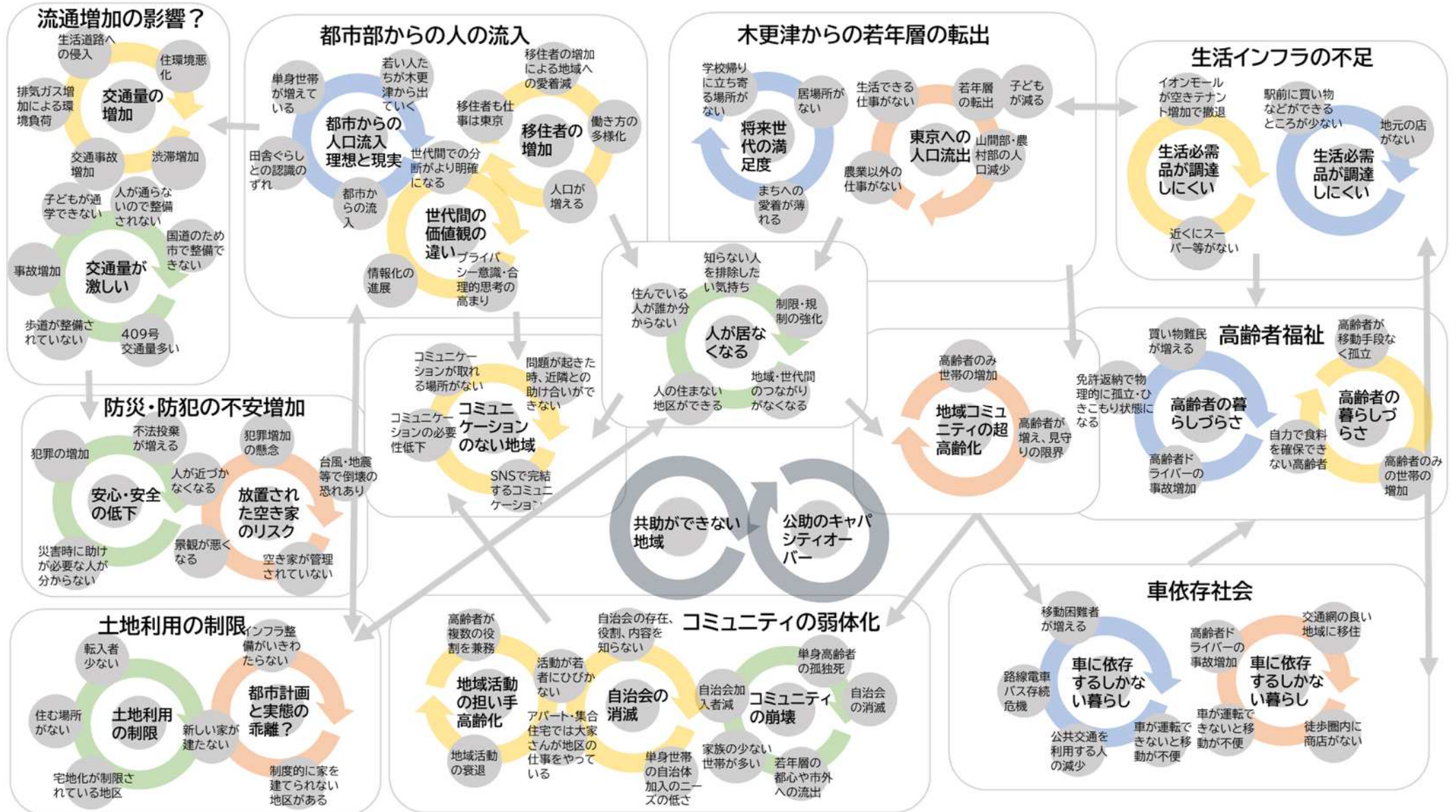
木更津市マンガラver.0 (マッピング)





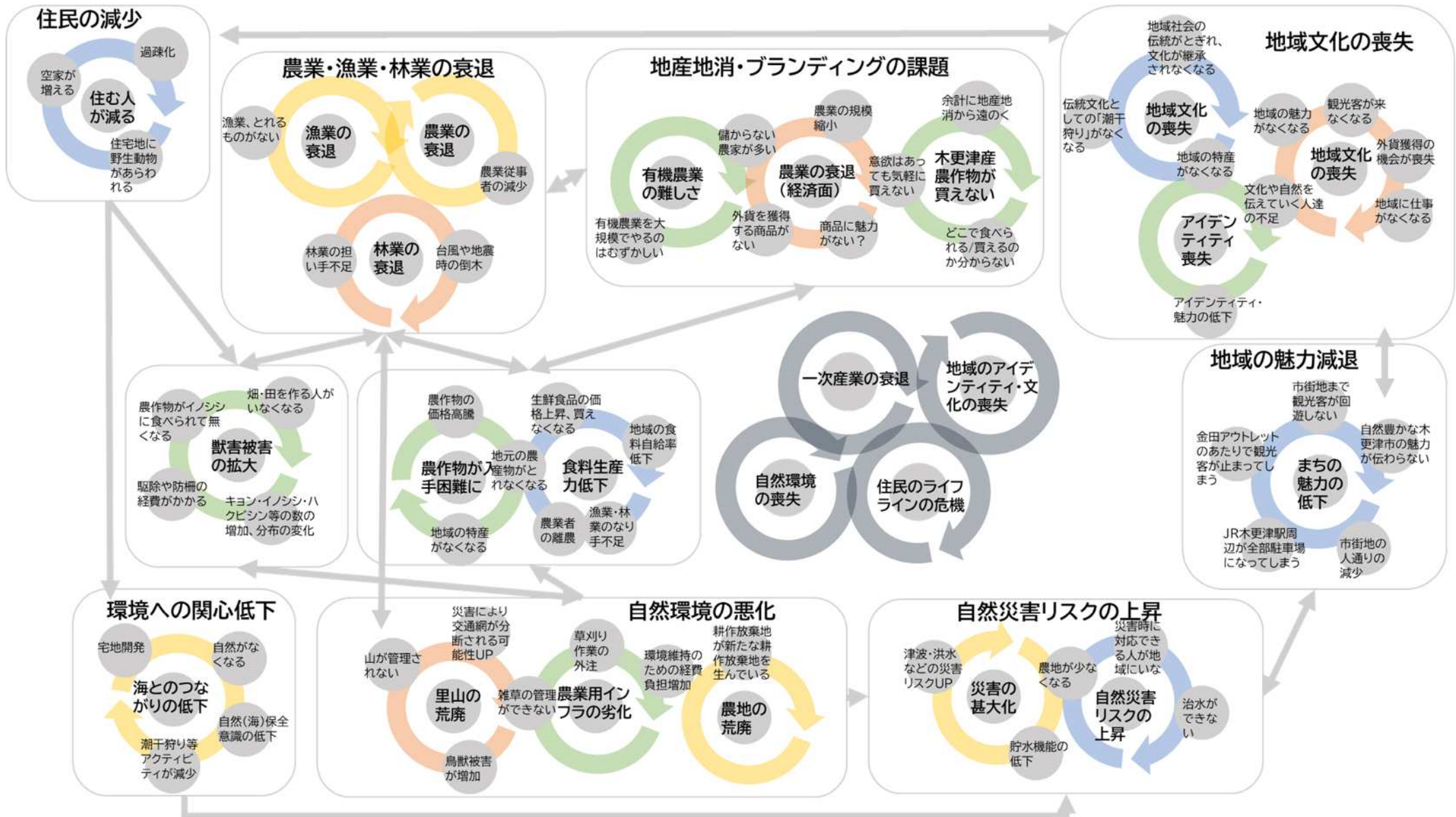
# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

木更津市マングラver.0 (テーマ別)



# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

木更津市マングラver.0 (テーマ別)





# 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフミーティング				◆中間共有会					◆成果報告会
事業内容		★職員WS	アドバイザー打合せ					★テーマ別意見交換会 ① 里山の再生 ② 資源循環の促進 ③ 食・有機農業 ④ 再生可能エネルギー ⑤ ブルーカーボン			★全体会	
×	地域循環共生圏を基軸とする第3期オーガニックなまちづくりアクションプラン策定・公表											
	協議会		ワーキング部会				■オーガニックシティセミナー	ワーキング部会	協議会			
オーガニックなまちづくり				出前授業				出前授業				出前授業
										現地視察会		

## オーガニックシティセミナー ～地域循環共生圏 編～

「きさらづ地域循環共生圏の創造」に向けた取組を進めるため、環境省が「地域循環共生圏」を提唱した背景や問題意識を共有し、理解を深めるとともに、多様なステークホルダーを有機的に結び付け、事業のタネの発掘や担い手としての参画を期待することを目的に開催。

講師：中井 徳太郎 氏（日本製鉄株式会社 顧問、前環境省事務次官）

参加：約150名（木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会、オーガニックアクション宣言企業、包括連携協定締結企業等、市内事業者、市民、市職員 等）



# 今年度チャレンジした主な取組内容

## 取組①「職員ワークショップ」

### 【活動内容】

市内8つの行政区を4グループに振り分け、市内各地域における特性、課題抽出と課題解決に向けた意見交換を目的に実施。(参加者:20名)

### 【成果や気づき】

共通意見として、高齢者福祉関係、自治会の在り方やコミュニティの希薄化があり、環境面に関する意見が少なかった。

また、令和5年12月に開催された各地区まちづくり協議会構成員及び地区担当職員が参加した地域づくりワークショップにおける地域の現状と課題と大きな相違はなかった。

### 【活動の様子(写真など)】



## 取組②「テーマ別意見交換会」

### 【活動内容】

持続可能な地域づくりに向けて、市関係各部等を含め、事業者や関係団体と地域課題や活動状況、また、課題解決に向け連携した取組として継続・発展させていくための方向性について共有することを目的に各テーマ2回開催。(参加者:延べ70者)

### ■テーマ

- ① 里山の再生
- ② 資源循環の促進
- ③ 食・有機農業
- ④ 再生可能エネルギー
- ⑤ ブルーカーボン

### 【成果や気づき】

地域の資源が循環し、よりよく経済が回っていく視点が重要であり、課題の同時解決に向けた横断的な取組も創出されつつある。

また、行政の役割の一つであるビジネスマッチングの場ともなり得る。

今後、関係各部等のさらなる主体性が求められる。

## 取組③「全体会」

### 【活動内容】

意見交換会の成果や今後の取組を共有するとともに、参加企業・団体間でのネットワークづくりや新たな価値創出につながる場としての開催を計画。

### ■日程

令和6年3月22日(金)

### ■参加者

市関係各部等を含め、意見交換会の参加者全てを対象

### 【活動の様子(写真など)】

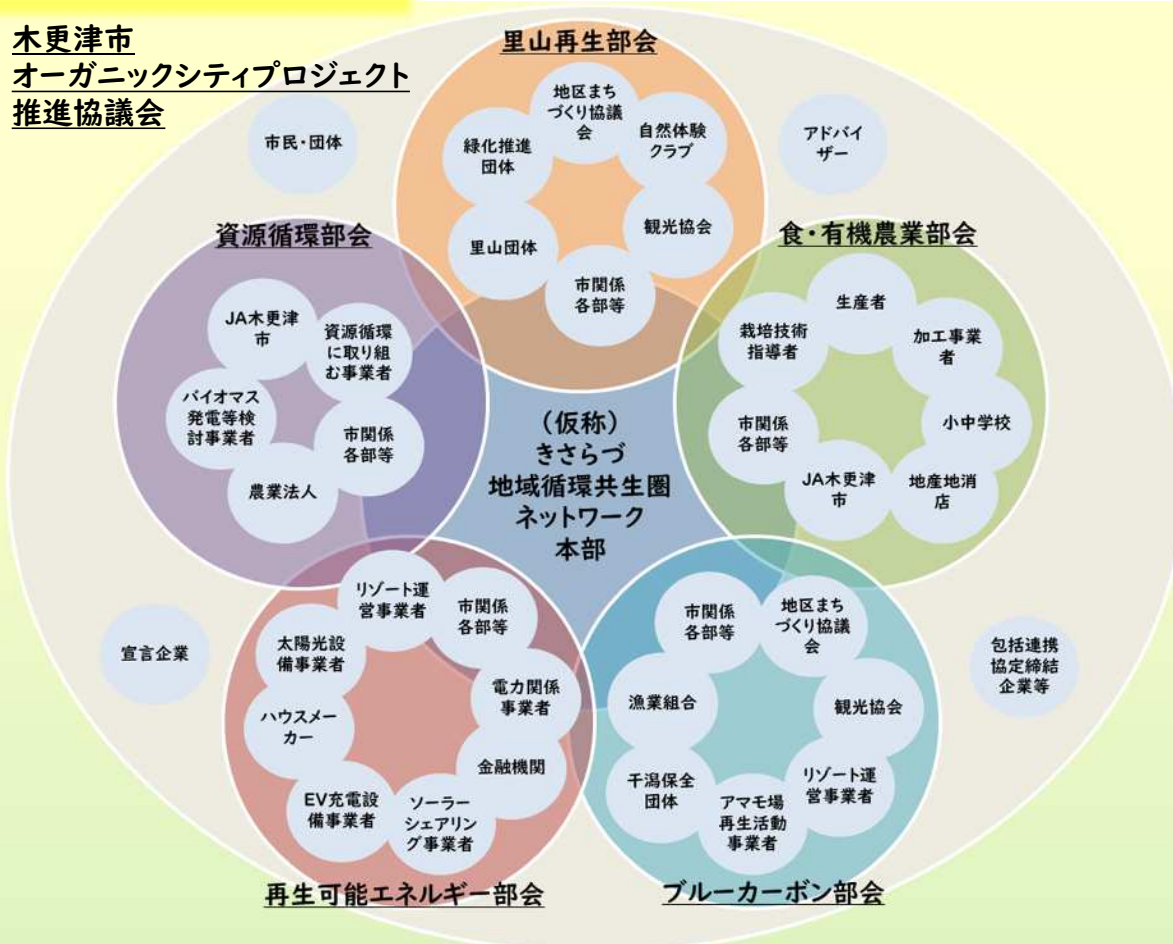




# 現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

## 【現状の地域プラットフォーム】

### 木更津市 オーガニックシティプロジェクト 推進協議会



### 木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会内に組織を構築

環境・経済・社会の三側面の自立的好循環を生み出し、市民等とのネットワークを強化しながら、必要な取組を重点的に推進する。また、オーガニックなまちづくりが新たなステージへステップアップする重要な視点として、「きさらづ地域循環共生圏の創造」を掲げている。

一方で、既存の推進協議会においては、オーガニックなまちづくりを推進することで、本市独自の地域ブランドの確立を目指すことを目的としていることから、「きさらづ地域循環共生圏の創造」に向けた方向性と一致。

## 【地域プラットフォームの変化】

本事業の採択前までは既存の推進協議会が中心であったが、5つのテーマで意見交換を重ねることで、これまでの取組で形成してきたネットワークからのつながりで新たな事業者や団体も加わり、多様な事業展開が期待できる状況になった。それに伴い、各テーマの横断的な取組の創出にも備えた体制構築を目指した。

また、すでに独自に取り組んでいる事業者・団体間で連携するとともに、同じ課題を感じているが、アプローチが異なる事業者・団体も巻き込むことによって、ルール作りからスタートすることで、少しずつ取組の環を広げ、課題の同時解決につなげていくことを目指す。

# プラットフォーム形成のポイント

## 地域のビジョン

令和4年度に市民で組織した「きさらづ未来会議」の提言書「7つの未来ビジョン」

- ① 人のつながりのあるまち
- ② 自然とともにあるまち
- ③ 人を呼ぶ魅力のあるまち
- ④ 誰もが安心して暮らせるまち
- ⑤ 子ども・若者が育つ環境のあるまち
- ⑥ わくわくして暮らせるまち
- ⑦ 生活が便利なまち



### ※「きさらづ未来会議」

誰もが住みやすいまちづくりビジョンを市民が取りまとめ、市民や市と共有し、市民が主役のまちづくりを進めるために設置された。この取組に共感し、未来のまちづくりに向け、これまでの経験を活かし力になればと、市民が集い、ワークショップを通じてそれぞれが木更津への想いを語り、意見交換をした。

## 仲間を探す

(苦労したこと) 地域循環共生圏や地域プラットフォームの理解

(工夫したこと) オーガニックシティセミナー ～地域循環共生圏 編～ 開催

## 体制を整える

(苦労したこと) 意見の異なる事業者・団体や庁内関係各部等の主体性や横断的な仕組みづくり

(工夫したこと) 「第3次基本計画」に「地域循環共生圏構想」の策定を位置づけるとともに、「第3期オーガニックなまちづくりアクションプラン」において、「きさらづ地域循環共生圏の創造」を掲げた。

## 事業を考える

(苦労したこと) 現地視察会の開催、経済性を伴い継続的に事業を創出する仕組みづくり

(工夫したこと) 事業者・団体ですすでに行われている事業・活動に横のつながりを持たせ、事業のタネを創出するとともに、「第3期オーガニックなまちづくりアクションプラン」の進行管理の中で反映させる。



# 取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

## 成果

- 既存の取組や課題を把握
  - 事業者や団体の皆さまと地域課題や活動状況、また、課題解決に向け連携した取組として継続・発展させていくための方向性について意見交換した。
- 新たなネットワークづくりの場
  - 行政の役割の一つであるマッチングの場となり、テーマに関係する事業者・団体間の新たな出会いの場となった。
  - 同じ課題を感じているが、アプローチが異なる事業者・団体が会する場となり、緩やかにつながることができた。
- 取組の方向性を共有
  - 今後予定している全体会において、これまでの意見交換を踏まえ、取組の方向性を共有・発信することで、共感を得るとともに、新たなステークホルダーを巻き込む予定である。

## 課題

- 経済的な持続可能性
  - 持続可能な取組として成長・発展可能な事業は、(1)民間事業者が主体的にビジネスとして実施していくもの、(2)市と連携・共創して取り組んでいくもの、に分類し、(1)については、事業採算性、(2)については、新たな財源確保が必要である。
  - 事業者・団体・地域の連携や調整が必要である。
- 市民等の共感、意識変容・行動変容
  - 市民、事業者・団体との協働・共創による「循環の輪」を広げる取組を推進するため、情報発信や意識・行動変容を促す取組も必要である。
- 役割の整理
  - 庁内関係各部等や事業者・団体の役割の整理が必要である。

# 活動における今後の展望

地域の持続性を高めるため、「里山の再生」、「資源循環の促進」、「食・有機農業」、「再生可能エネルギー」、「ブルーカーボン」をテーマとして、地域の課題解決に向けた取組を進める地域プラットフォームを立ち上げ、効果的な事業を生み出すとともに、この事業を「第3期オーガニックなまちづくりアクションプラン」の進行管理の中で反映させ、市民・団体・民間事業者とのネットワークづくりを強化しながら、「循環の輪」を広げる取組を推進する。

## 地域プラットフォーム構築に向けた取組

- **ステークホルダーの巻き込み**
  - 声かけや情報発信することで、緩やかなつながりを広げる。
- **マンダラのブラッシュアップ**
  - 課題を深掘りすることで、持続可能な事業のタネを生み出す。

## 事業化に向けた取組

- **取組の共有・検討・試行**
  - ステークホルダーと意見交換を重ね、事業のタネをブラッシュアップするとともに、持続可能な取組を生み出し、具体的な事業へつなげる。